

小径をゆけば

校長コラム

No.24

オーバーヘッドプロジェクター

機器の進化についても少し。今の教室には電子黒板が設置してあります。教科書のすべてのページを画面に映し出すことができます。画面上に線を引くことも自在です。子どものノートも書画カメラで簡単に大画面に映し出すことができます。来年度は五年生以上に一人一台のタブレット端末が整備されます。授業スタイルはさらに変化していくことでしょう。三十五十年前の教室にはオーバーヘッドプロジェクターのOHPなるものがありました。一辺が40センチほどの箱の形をし、上部はガラス面で内部にはレンズとランプがあり、アームの先には反射鏡がありました。言葉で説明すると難しいですね。透明シートに色ペンで書いた文字や図を天井から引き出したスクリーンに映し出します。カーテンを閉めて教室を少し暗くしないと映像がよく見えません。一枚のシートを作るのに大変な手間がかかりました。凝りだしてくると、文字の上に糊付きのセロシンのような色シートを切つて貼り付けます。最初は厚紙をかぶせておいて、話す順番に合わせて少しずつめくっていく技も駆使しました。授業で使うのは当たり前ですが、学校の研究発表会では必需品でした。何枚もシ

ートを作って研究発表会に臨みます。自分の発表を手助けしてくれる先生はOHPの前に座って、順番にめくっていきます。事前にリハールを入念にし、OHPの内部にあるランプの点検をします。肝心な時にランプが切れるからです。しかし、ウインドウズ95が発売されパワーポイントが世に出たら、あどいつ間にOHPは駆逐され、学校の倉庫に積み上げられることになりました。私は97年にいち早くパワーポイントを使って研究発表会をしましたが、本番でパソコンが動かなくなつて大慌てしました。結局、どんな機器にもピンチの場面がやってくるのです。

〜 続く 〜